

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 28 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24500727

研究課題名(和文)戦後沖縄におけるスポーツの意味作用

研究課題名(英文)Significance of Sport in Post war Okinawa

研究代表者

清水 諭 (SHIMIZU, Satoshi)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号：40241799

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、戦後沖縄におけるスポーツの意味作用を高校野球、オリンピック、国民体育大会、ボクシング、そしてゴルフを事例にして分析した。高校野球において沖縄は、全国でも強豪レベルにありながら、「本土」との格差を意識し、劣等意識が現れていることが分かった。このことは、1964年東京オリンピックにおける「首都東京の構築」「経済成長する日本」が示され、2016年・2020年東京オリンピック・パラリンピック招致の際の「湾岸開発」に示される開発主義と東京一極集中主義とは大きな相違が見える。沖縄及び東京におけるスポーツの意味を分析・考察することによって、戦後日本におけるナショナリズム戦略を捉えることができる。

研究成果の概要(英文)：This study analysed the significance of sports in post war Okinawa such as high school baseball, 1964 Tokyo Olympics, National Athletic Meets (1973 and 1987), world championships of professional boxing and professional golf tournaments. In spite of being very skilled in high school baseball tournament, Okinawa's participation seemed to represent the 'sympathy' of the sad experiences and a mental weakness whereby there was a lack of tenacity for the purpose of victory. This situation seems to be sharp contrast of developmentalism and centralisation of Tokyo where symbolised 'metropolis Tokyo' and 'development of Japan' in 1964 and made progress of 'Waterfront development project' in the bidding process of 2016 and 2020 Tokyo Olympics and Paralympics. We can analyse and discuss the strategy of Japanese post war nationalism through sport in Okinawa and Tokyo.

研究分野：スポーツ社会学

キーワード：沖縄 野球 オリンピック 東京 ナショナリズム 他者像 自己像

1. 研究開始当初の背景

- (1) Mangan, J.A. は、近代スポーツのグローバルライゼーションが帝国主義、ナショナリズム、そして消費主義の3側面から形成されていると指摘した上で、アジアにおけるスポーツの受容と我有化が近代社会化との「二重らせん」であると述べている (Mangan, 2003)。
- (2) 研究代表者は、日本における全国高校野球選手権大会の誕生を京阪神における消費社会の進展と鉄道会社の企業戦略を歴史的に追い、新聞社とテレビ局によって構築される物語の意味作用と人々の解釈の諸相をメディア研究とフィールドワークから明らかにした (清水論:『甲子園野球のアルケオロジー』新評論, 1998)。さらに、アメリカに起源する「ベースボール文化」を日本人がどのように受容し、翻訳・変容し、我有化してきたのかを消費社会の進展に着目しながら、プロ野球リーグの成立過程について分析した (S. Shimizu, 2010)。
- (3) スポーツイベントの政治的意味作用については、Bairner, A (2001; 2005)、Sugden, J. and Bairner, A. (1999)、Hagreaves, J. (1982)の研究がある。特に、Bairner は、スポーツとナショナル・アイデンティティの結びつきについて、想像の共同体 (Anderson, B., 1983) としてのナショナルリティ創出のプロセスを1) 言説レベル 2) 人々が経験する現実 3) 歴史と社会的背景の3側面から分析している。

2. 研究の目的

- (1) 本研究は、沖縄における高校野球(1952年～)、東京オリンピック(1964年)、国民体育大会(1973年・1987年)、プロボクシング世界タイトルマッチ(1970～80年代)、さらにプロゴルフ(1990年代)を分析対象として、沖縄の人々がその歴史的事実を心に刻みながら、どのように「沖縄人であること」「日本国民であること」を構築し、生きてきたのかについて、分析・考察することを目的とした。
- (2) その際、特にメディアによって構築される「沖縄人」に対する他者像と自己像を分析し、ナショナルリティ構築がどのようになされてきたのかを1964年東京オリンピックと都市東京の構築、及び東京に住む人々への政策との対比を含めて考察した。

3. 研究の方法

- (1) 本研究において、沖縄の人々の占領、米軍基地、日本政府の対応に関する歴史認識と1950年代以降の祖国復帰運動ほか社会運動に関する歴史的事実

に関する文献の収集と分析が必要となる。

- (2) その上で、高校野球、オリンピック、国民体育大会、プロボクシング世界タイトルマッチ、ゴルフについて、新聞・著作物・テレビ映像などメディア言説の分析を行った。
- (3) 特に、都市東京とオリンピック開催との関わりについて、歴史資料を踏まえながら、1940年大会招致、1964年大会開催、2016年及び2020年大会招致について、具体的な分析・考察ができるように歴史分析を行った。

4. 研究成果

- (1) 沖縄の人々の占領、米軍基地、日本政府の対応に関する歴史認識と1950年代以降の祖国復帰運動ほか社会運動に関する文献及び資料の解説は、下記に示す主な発表論文における視角及び仮説の構築につながった。

- (2) 沖縄における高校野球の意味作用について、以下のことが明らかになった。
(雑誌論文 ; 図書)

戦後沖縄における高校野球は、米軍の基地文化との接点を持ちながら、一方で本土メディアによる判官鼻扇と「米軍上陸」「占領地沖縄」といった「悲しい過去」が表象化されてきた。この様相は、1970～80年代の沖縄県勢の甲子園における活躍の事実があったにもかかわらず、絶えず再生産され続け、沖縄に住む人々にとっても自己像として意識化されてきた。

沖縄の人々に対するこうしたスポーツを通じた表象は、沖縄の人々が実際に体験した戦争の現実とその記憶に対する議論の場を構築することなく、戦争に対する歴史と記憶の現実を忘却させてしまう作用を持つと考えられる。

スポーツを通じた開発や平和構築という視点からすれば、沖縄における高校野球は、沖縄の人々に「平和な現実と未来」を見通すことよりも、過去の戦争体験を振り返らせながら、瞬間的な祝祭の時空間を提供したと考えられる。

- (3) 沖縄における東京オリンピック、国民体育大会、プロボクシング世界タイトルマッチ、プロゴルフの意味作用について以下のことが明らかになった。
(雑誌論文)

東京と沖縄との距離が問題となるこうした事例については、東京すなわち日本政府に対する沖縄の人々の期待や希望が各イベントなどで存在することが分かったが、現実の沖縄における生活などに変化はなく、あくまでスポーツという時空間における意味作用にとどまるものと考え

られる。

しかしながら、こうしたスポーツの事例と政治的主張を伴う住民運動との関係については、より深い調査が必要であることが認識された。

- (4) 都市東京とオリンピックの開催に関して、1940年招致・1964年開催・2016年招致・2020年開催決定までの歴史のプロセスを明らかにし、そこからオリンピック大会を通じた都市東京の開発戦略、及びオリンピックの問題系について明らかにすることができた。
(雑誌論文 ; 学会発表 ; 図書)

都市東京は、1923年の関東大震災、1945年の東京大空襲からの復興を課題としており、オリンピック大会の開催は、都市再構築にとって大変重要な機会を提供してくれる契機と考えられた。

したがって、国際オリンピック委員会が提唱するオリンピック運動の意味そのものを普及させる目的そのものよりも、日本国内、特に東京一極集中を進めるための格好の材料と考えられた。1940年東京大会招致の目的は紀元2600年を祝う目的があったし、1964年大会開催の目的は大空襲で焼け野原となった東京の交通網のほか、住民の環境整備などを含めたインフラストラクチャーの開発・整備が重要な目的となった。

2016年と2020年東京大会の招致においては、東京湾岸開発を行う「ウォーターフロント・プロジェクト」が押し進められており、会場施設とその周辺は、これらのプロジェクトの進展と深く関わるものであった。

以上のような都市東京の構築とその歴史に関して、オリンピック開催と関係づけた論稿は、学術図書として発行された(菊幸一(編)『現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか：オリンピック・体育・柔道の新たなビジョン』ミネルヴァ書房、2014)。そして、その著作は、「嘉納治五郎の成果と今日的課題に関する歴史社会学的研究班(菊幸一ら)」に対する「第17回秩父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞」(公益財団法人日本体育協会、2015.3.25.)を受賞した。

- (5) スポーツとナショナリズム、スポーツの文化社会学的見方や考え方、及びスポーツ社会学の系譜について、学部学生及び一般の方々に対して、『スポーツ大事典』、DVD、そして研究代表者のホームページから情報を発信し、国内外の人々との議論及び教育現場に貢献することができた。(図書 ; DVD)

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計6件)

Satoshi Shimizu, Tokyo, Bidding for the Olympics and the Discrepancies of Nationalism, *The International Journal of The History of Sport*, 査読あり, 31-6: 601-617, 2014.

<http://dx.doi.org/10.1080/09523367.2013.878501>

清水諭, スポーツを通じた国際開発学の位置, 現代スポーツ評論, 査読なし, 31: 8-17, 2014.

清水諭, SDP・IDSの視点から障がい者のスポーツを考える, 現代スポーツ評論, 査読なし, 29: 8-17, 2013.

Satoshi Shimizu, The Significance of Koshien Baseball in Postwar Okinawa: A Representation of "Okinawa", *The International Journal of The History of Sport*, 査読あり, 29-17: 2421-2434, 2012.

<http://dx.doi.org/10.1080/09523367.2012.751190>

清水諭, スポーツする身体とナショナリズム, 現代スポーツ評論, 査読なし, 27: 8-17, 2012.

清水諭・竹崎一真・高峰修・山下尚一, ロンドン・オリンピックをめぐるメディア言説: 英・日・米・豪・仏, 現代スポーツ評論, 査読なし, 27: 135-143, 2012.

[学会発表](計4件)

Satoshi Shimizu, Disaster, Memory and the Value of Sport: Tokyo and the Olympics, International Conference, Fragmentation and Divergence Towards the Management of Social Transformation, 2015.3.11, L'Ecole des Hautes Etude en Science Sociales (EHESS), Paris (France).

Satoshi Shimizu, The Transformation of Asian Football Cultures in the Last Two Decades: A View from Urawa, Japan, The World Football Conference, 2015.1.21, Victoria University, Melbourne (Australia). (Keynote Address)

清水諭, IOCの戦略・「正義」・文化産業の政治経済学: 1984.7.28.;2001.9.11.;2009.10.2.;2011.6.17.;2020.7.26, 日本マス・コミュニケーション学会春季研究発表会シンポジ

ウム 2, 「東京オリンピックの 80 年史」とメディア: 3・11 以降の現代を逆照射する, 2014.6.1, 専修大学(神奈川県川崎市). (招待講演)

Satoshi Shimizu, Olympics, Tokyo and Nationalism: Why does the city of Tokyo bid for the Olympics?, International Journal of the History of Sport Workshop, 2013.4.18, University College Cork, Maynooth (Ireland).

〔図書〕(計 6 件)

清水諭他, 世界思想社, 現代文化を学ぶ人のために, 2014, 262 (163-177).

清水諭他, ミネルヴァ書房, 現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか: オリンピック・体育・柔道の新たなビジョン, 2014, 344 (49-79).

清水諭他, 大修館書店, 21 世紀スポーツ大事典, 2014, 1378 (225-227).

清水諭他, 日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会, 平成 24 年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 日本体育協会創成期における体育・スポーツと今日的課題: 嘉納治五郎の成果と今日的課題 - 第 3 報 -, 2013, 101 (42-50).

清水諭他, 創文企画, 21 世紀のスポーツ社会学, 2013, 271 (177-194).

清水諭他, 日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会, 平成 23 年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 日本体育協会創成期における体育・スポーツと今日的課題: 嘉納治五郎の成果と今日的課題 - 第 2 報 -, 2012, 107 (21-37).

〔その他〕

ホームページ等

<http://cafesportandbody.sakura.ne.jp/>

DVD

清水諭他, OurPlanet-TV, NPO 法人アジア太平洋資料センター(PARC)(企画) 谷口源太郎(監修) 検証! オリンピック: 華やかな舞台の裏で, 2014, (25 分).

6. 研究組織

(1) 研究代表者

清水 諭 (SHIMIZU, Satoshi)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号: 40241799